

農の架け橋 地域と共に

— 白子町農業委員会だより NO. 49 —



令和3年12月
編集・発行/
白子町農業委員会

農業委員及び農地利用最適化推進委員を皆さんに紹介します。

「フリルアイス」の栽培 ～新たな挑戦～

白子町中里 河野 庄一 さん（農地利用最適化推進委員）

細かくギザギザの葉先が特徴的な「フリルアイス」。通常の玉レタスに比べ、立体的で存在感がある人気の野菜。食感は玉レタスと似ていてシャキシャキで苦みもなく、弁当の仕切りやサラダの具材にすると見た目も華やか。今年8月から農事組合法人「白子グリーンファーム」の組合員と一緒に、新たにこの作物の栽培に取り組み始めた河野さん。

20歳で本格的に就農し、両親と妻の4人で施設野菜（サラダ菜・サニーレタス・トマト）と水稲の複合経営を行っています。現在は（有）アグリの代表を務め、年間を通じて農作物の生産・出荷を行い、従業員の通年雇用を可能とした企業的な経営を展開しています。（有）アグリはパート25名を雇用していて地域雇用への貢献も大きく、町には欠かせない農業法人の一つです。

「自分達が選んだ農作物を栽培し、栽培方式も決めることができる。それは農業の魅力のひとつ。

昨年はトマトの収量を増やすため、水耕栽培から養液栽培（ロックウール）へと栽培方法を変更して成果を出すことが出来ました。今年はフリルアイスの栽培にも挑戦してみたので、今から収穫がとても楽しみです。」と語る河野さん。

続けて「最近、消費者の皆さんから野菜の値段が高いとの声をよく耳にしますが、私たち生産者は、美味しく新鮮で安全な野菜を届けたいと常に頑張っています。低価格を求める消費者の皆さんの気持ちも分かりますが、農産物には適正価格があるという

事を理解してもらいたい。どんな作物であれ生産意欲が沸く価格でなければならないと思う。」と農業経営に携わる河野さんならではの本音もチラリ。

最後に伝えたいことはありますか？の問いに「フリルアイスをスーパー等で見かけたら是非、手にとってみて下さい。」と忘れずにPR。これからもチャレンジ精神を持って農業経営に望みたいと熱く語る姿からは、農業ビジネスとして成長して行く大きな可能性を感じられました。



河野有桂さん・河野庄一さん 夫妻

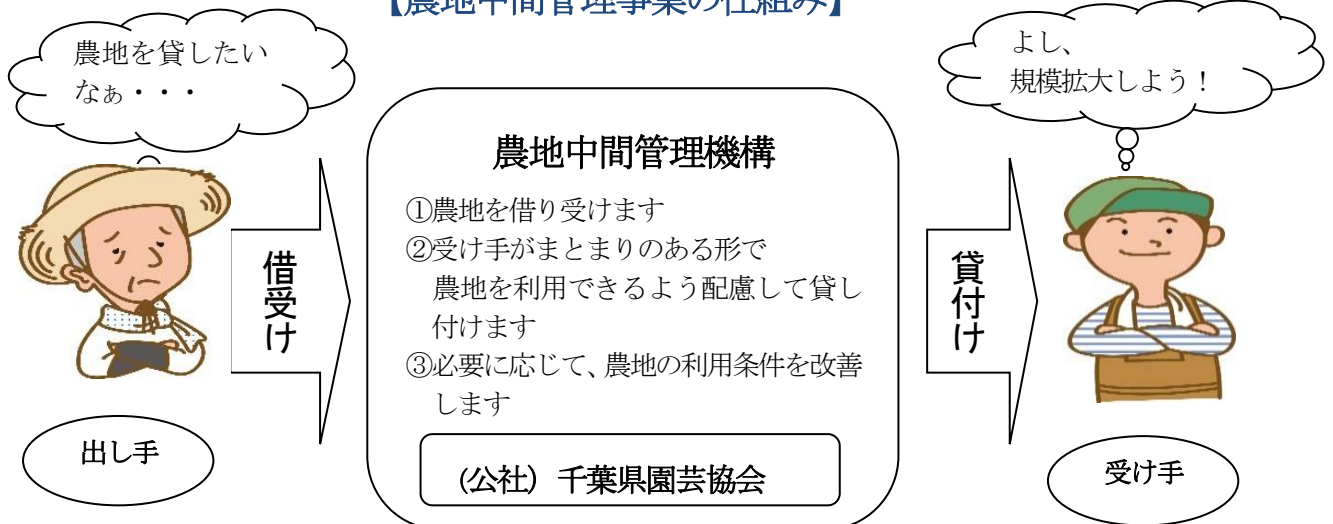


フリルアイス（非結球レタスの一種）

○ 農地を貸したい方はご相談ください。

農地を必要とする方に貸し付ける農地を探しています。農業からのリタイアを考えている、相続した農地の管理に困っている、水田をやめて畑に専念したいなどの理由により、貸したい農地がある方は、農業委員会にご相談ください。

【農地中間管理事業の仕組み】



令和3年度 協力金の内容

(1) 地域集積協力金【地域に支払われる協力金】

- ①集落などの農地をまとめて機構へ貸し、交付対象面積の10%以上が新たに担い手に集積される地域
※ただし、担い手が不足する地域であって、新規就農者等を受入れ、当該要件の達成に取り組む地域は5%以上とする（翌々年度までに10%以上を達成することが必要）

≪一般地域≫1.0~2.2万円/10a (集落などの農地を20%超貸付)

≪中山間地域≫1.0~2.8万円/10a (集落などの農地を4%超貸付)

- ②担い手同士の農地交換で農地の分散を解消した地域

(ア) 担い手の1ha以上(中山間地域及び樹園地では0.5ha以上)の団地面積の割合が20ポイント以上増加

(イ) 既に担い手の1ha以上の団地面積の割合が40%以上の地域で、担い手の団地面積の平均が1.5倍以上増加

- 集落などの農地を40%超機構へ貸し付け、(ア)または(イ)のいずれかの要件を満たす場合

0.5~1.0万円/10a (集落などの農地を40%超貸付)

(2) 経営転換協力金【個人に支払われる協力金】

- ①農業をリタイアする

②農業部門を減少する(例:畑に専念し、水田等の部門をやめる)

③農地を相続したが、農業経営を行わない

- ①、②、③のいずれかの理由により、その農地を10年以上機構へ貸し付けた場合

1.5万円/10a (1戸当たり上限50万円)